

桃山孤立ゼロプロジェクト ボランティア事前説明会

2024年11月6日（水）18：00～

今日の目的・内容について

◎当日の訪問調査を効果的に実行するため、全体の流れ・分担を共有する。また、「孤立」への理解、訪問時の気かけポイントについて整理する。

- ・孤立・孤独とは？
- ・地域における見守り活動の考え方
- ・桃山孤立ゼロプロジェクトの目的・概要
- ・当日の一連の流れ
- ・訪問時に気にかけてもらいたいポイント
- ・訪問後のその後の対応について

孤独と孤立の違い

- 孤独

主観的概念であり、ひとりぼっちとを感じる精神的な状態を指し、さびしいという感情を含めて用いられることがある。

- 孤立

客観的概念であり、社会とのつながりや助けのないまたは少ない状態を指す

ひとりでいても、つながっていてもよいが
悩みや困りごとが生じた際にひとりでかかえ込んでしまうことで、
複雑化・深刻化することが問題
社会の変化によって生まれやすくなっているため、「自己責任」ではない

孤立に関するポイント

- 社会環境の変化によってつながりが作りにくい
 - ⇒個人の責任ではない
 - ⇒誰にでも起こりうる
- 支援の受け方が分からなかったり、必要でないと考えているために、支援を受けていない孤独・孤立状態の人がいる
- 理解してもらえる・相談できる人が身近にいることが孤独感を和らげることにつながる

↓ 調査結果の詳細は ↓



地域における「見守り活動」って何をすればいい？

周りの人を何気なく気に掛けることから始まる

声掛け

- あいさつをする
- 声をかける

一方的な「監視」にならないような活動が理想

つながる

- 顔の見える関係
- 話し相手になる
- いつも気にかける
- ちょっとした手助け

気づく

- 異変に気付く
- 違和感を覚える

つなげる

- 適切なところへ相談
- →警察、救急、地域包括支援センター、区役所、社協、民生児童委員

今回の訪問調査実施を通して

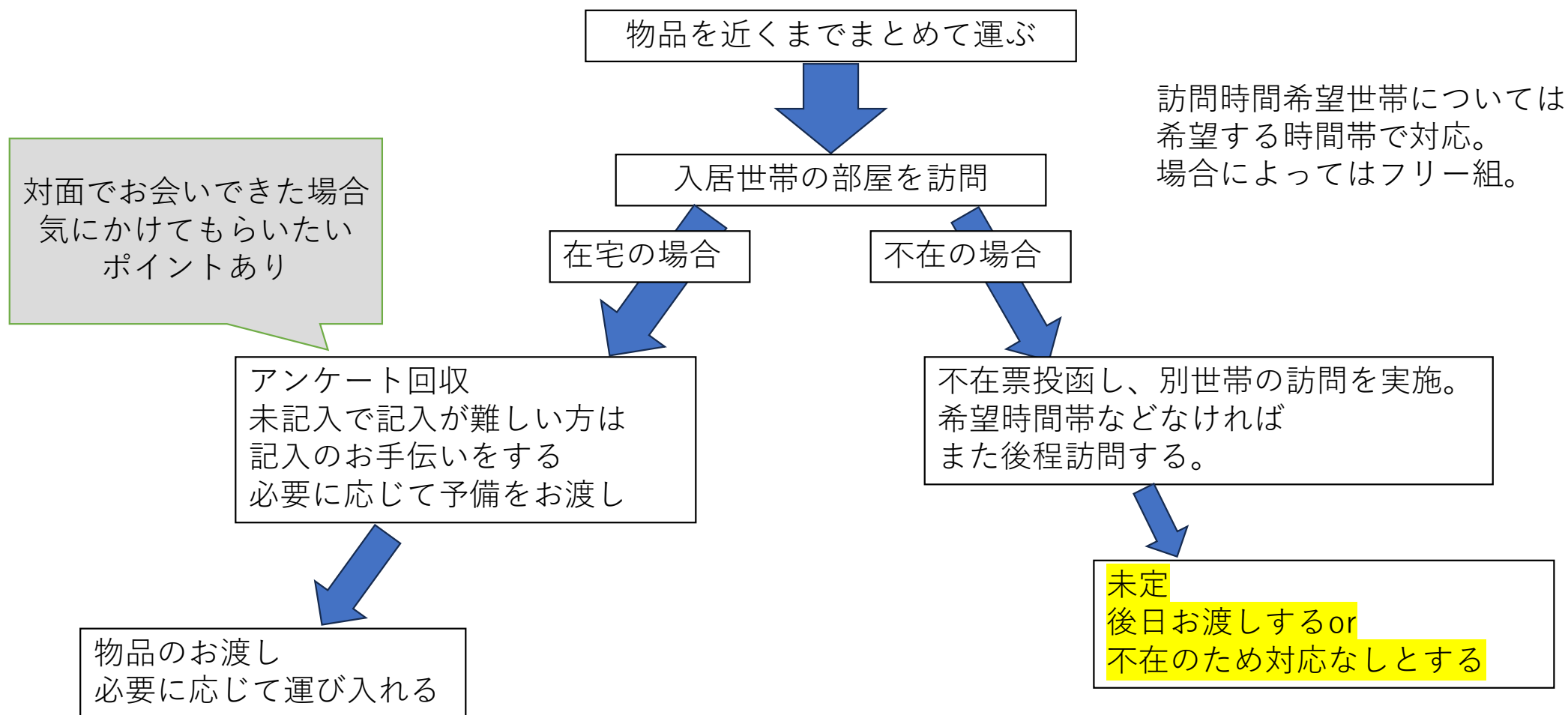
- 目的 「孤立」をゼロにしていく。
- 方法 対象エリアお住まいの方の「孤立」に関する意識調査
アンケート調査＋当日の訪問時の聞き取り・様子から
実態を把握する。

⇒調査結果を通して、この地域で孤立をなくすために、
どのような取り組みがいいのか考えていくきっかけ・根拠をつくる。

例：相談先がわかるようにする

顔が見える関係性をつくる取り組みを新たに実施する
現存の活動に意味を付加する

訪問の一連の流れ（例）



訪問時の気かけポイント

- 顔色が良くない・表情が乏しい
- ごみが放置され、においがする(玄関内や外)
- 顔や身体にあざや傷が見られる
- 季節とずれた服装をしている
- 話や説明が伝わらない
- 在宅している様子はあるが出てこない

⇒該当する様子や、気づいたことがありましたら、
本人宅をいったん離れ、部屋番号を記録して地図上または
アンケート用紙裏にメモをする。

拒否感が強い場合は、無理に話そうとせず失礼する。

訪問後の対応について

相談希望	不在	「気になる」世帯	調査結果
記入・提示された内容に基づき適切な機関に相談をする ⇒区社協職員を中心に適切な機関につなぐ。	検討中 ①自治会内で保管し、アンケート結果をもらったうえで物品のお渡しをする。 ②10日のみの対応とする。 ※調査に対しての謝礼の食品セットのため、アンケートの受取必須 ①、②どちらかを記載	訪問時に訪問ボランティアが「気になった」世帯について ⇒区社協職員を中心に適切な機関につなぐ、あるいはかかわりを持てるような取り組みを検討・実施する。	アンケート結果を集計したうえで、後日行われる意見交換会にて内容を提示。 今後の地域の取り組みやつながりづくりへの啓発材料として活用していく。